

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104067		
法人名	医療法人 星の里会		
事業所名	グループホーム パラディース		
所在地	下関市菊川町下岡枝164-1		
自己評価作成日	平成28年 4月27日	評価結果市町受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年 5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者主体に当たり前の生活を継続している中で、ここでの役割をそれぞれ持っていただき生きがいにつながっている。職員が待つ姿勢で寄り添っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道の駅のフリーマーケットに事業所が出店される時には、利用者が店長や会計、値札づくりやチラシづくりなどを担当しておられます。利用者が出来ることや何をしたいかなどの把握に努められ、利用者がある人らしく生き生きと過ごされるように場面づくりに工夫をされて支援しておられます。地域の夏祭りや文化祭、敬老会、芸能祭り、花火大会、音楽祭などに出かけられている他、法人行事の新年会、運動会などに出かけられるなど、外出の支援に取り組んでおられます。外部研修は、職員の段階や希望に応じて参加の機会を提供され、勤務の一環として年3回、有休を利用して年9回は参加されるなど、職員全員が年1回以上外部研修を受講され、スキルアップにつながっておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人々に思いやりのある安心安全な医療介護を提供します」という法人理念と共に「利用者主体の生活を支援するべくサービスの提供」「ゆったりとした時間の提供」「利用者も職員も笑顔になる」という事業所独自の介護理念を職員全員が常に意識し理念の実現につなげ実践している。	法人理念を基に事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者や職員は日常業務の中やカンファレンス時に話し合いをして確認し、理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の日常必要物品は、一緒に買物に同行したり、利用者主体のフリーマーケット出店で地域の方との交流を図っている。事業所の行事等の案内やお知らせを職員と一緒に近隣へ配布している。町内の各行事や地域の方が参加する行事に参加。事業所との関わりを深めてグループホームを知って頂くようにつとめている。	自治会に加入している。市の広報誌や地域の人からの情報を得て文化産業祭、敬老会、ボランティア祭りに参加している他、道の駅のフリーマーケットへの出店、市民会館で開催される各種の催し物(響感ピアノ演奏、下関市小学校音楽祭など)に出かけて地域の人と交流している。保育園児の来訪や中学生の体験学習の受け入れをしている。法人の文化祭や運動会、夏祭りなどの他、ボランティア(コーラス、カラオケ、踊り、太鼓など)の来訪があり交流をしている。地域の人より果物やお菓子の差し入れがある他、周辺の散歩時などに挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活で関わる地域の方(店員さん、道の駅や消防署や多目的会館の職員の方など)、ボランティアで来所された方、運営推進会議に参加の方との意見交換や実際に触れ合って頂き、お互いの理解を深めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は職員会議で評価の意義を説明し、理解したうえで、全職員で自己評価に取り組んでいる。日々の業務で地域との関わりや、利用者の課題について常に話し合い、サービス改善に繋げている。	管理者は職員会議時に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類に職員が記入した後に、管理者と職員が話し合いをしてまとめている。前回の外部評価結果を受けて、災害時の地域との協力体制の構築に向けて改善に取り組み、事業所の避難訓練には、近くのスーパーマーケットからの参加を得ているなど、評価を活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告を撮影した動画をモニターで報告している。そこで頂いた意見や助言は職員会議等で話し合い、次に活かせるようにしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、活動予定や報告、事故報告、外部評価結果報告、避難訓練、冬場の入浴についての講話等をして、意見交換をしている。メンバーより離設時の危険性についての意見があり、離設対応マニュアルを作成することや訓練に向けての話し合いをしているなど、そこでの意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者とは、運営推進会議の他、介護保険更新申請手続きに、ご本人と直接行き、利用者の実情について知らせたり行事の時には連絡を取り協力関係を築くように努めている。	市担当者とは、運営推進会議時に相談して助言を得たり、情報交換をしている。介護保険の更新申請の手続きなどで出向いている他、FAXで事故報告書送付時にも相談や情報交換をして協力関係を築くようにしている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に助言を得たり、利用者の個別相談をしているなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルの読み直しをし、理解・実践に取り組んでいる。玄関の施錠は夜間安全の為のみで、外出時には「行ってきます」「ただいま」の声掛けを利用者、職員共に習慣にしている。	外部研修や内部研修で学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで利用者が外に出たい時には、職員と一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては管理者が指導をしている他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や日々の介護を通じ、スピーチロックや言葉使いなど、すぐその場で職員同士が注意し合うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や勉強会を通して学んでいる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全職員が説明出来るように、まずは、職員の理解から始めて、ご家族には書面を通じて説明を行っている。疑問点があれば、それに対する説明をして、理解をして頂き、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けて、ご家族への活用を呼び掛けている。面会時や行事参加時に意見や要望を聞いている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きについて契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。面会時や運営推進会議時、行事参加時(フリーマーケット、クリスマス会など)、利用料支払い時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに対する要望には対応している。運営に反映させるまでの意見等は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞いている。	月1回の職員会議時や申し送り時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日常業務の中でも意見や提案を聞いている。利用者の思いを把握するための記録様式の変更についての提案や利用者の状態に応じた勤務体制の変更などの意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的には実例に基づき実技指導を行ったり、ケアに対する基本的な考え方を話合う機会を設けている。勤務しながら実践で学べるように支援、学習している。職員全員が外部研修に参加できる環境にある。	外部研修は情報を職員に伝え、段階に応じた勤務の一環として参加の機会を提供している。年3回は勤務の一環として、年9回は有給を利用して受講し、受講後は復命し、資料を回覧して職員間で共有している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回程度、テーマ(外部評価、接遇、法令順守、拘束、虐待、成年後見制度、インフルエンザ、低温火傷、ノロウイルス、熱中症、転倒、入浴など)を決めて実施している。新人職員は日々の業務の中で先輩職員が介護技術や知識を指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加できる環境にあり、参加した研修を通じて交流を深め、情報交換や訪問に繋げ、良い点や参考になる点は積極的に取り込んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の目を見て話し、職員と利用者の関係というよりは、一人の人間として真摯に向き合い、しっかりと訴えや思いを受け止め、必要であれば寄添い、安心に過ごせるように信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、不安や希望、疑問をしっかりと聞き、安心に結びつけられる要素を見つけ、納得いかない事柄については、管理者との話し合いの場を設けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況と家族を含めた思いに応じて、本部とも連携をして検討をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家」「家庭」という雰囲気大切に、まず利用者主体を基本とし、出来ない所を支援する為に、職員が寄り添うようにしている。固定観念は持たずに、何か出来る事を探すようにし、生活の場に参加できるようにしている。何かする時は本人の思いを聞いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や支払いに来所された時には、ご本人の近況を報告すると共に、ご家族からのみではなく、施設側からも相談、要望を遠慮なく言い合える関係作りに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の情報があれば、可能な限り関係の継続を支援している。行きつけの美容院やスーパーでの買い物や知人や友人も面会、宿泊、旅行、法事、墓参り、外食など、家族と協力し支援に努めている。	家族や親戚の人、知人、友人の来訪がある他、自宅周辺の散歩、電話、手紙や葉書を出す支援をしている。家族の協力を得て、外出、外食、外泊、馴染みの美容院の利用、墓参り、法事への出席など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の特性を把握して、気の合う者同士を結び付け、お互いに声を掛けあってもらうようにしている。利用者主体の生活をごく自然な形で作りあえる事を考えて支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、関連施設や病院へ移動した方がいる。合同行事等で顔を合わせる時は、利用者同士の会話時間を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人の行動や言葉を記録し、その中から思いや意向を把握するように努めている。	本人、家族の思いや意向、生活歴、趣味などの基本情報を聞き取り、アセスメントシートに記録して活用したり、日常の関わりの中で気づいた利用者の言葉や様子、状況等を個人記録に記録して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴等の情報収集に努め、現場で活かせるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の出来事、状況等の記録を基に申し送りを行い、職員間で情報を共有し、出来ない事だと思い込みをせずに、どのようなアプローチをすれば出来るのかを日常的に声掛けしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で利用者の状況を話し合い、課題を検討している。ご家族にも相談をし、必要に応じて関係者とも話合っている。状態の変化があるときには見直しを行っている。	本人や家族の意向を聞いて、主治医、看護師、職員の意見を参考にして、月1回のカンファレンスで計画作成担当者と管理者を中心に話し合い、介護計画を作成している。3～6ヶ月ごとにモニタリングを実施し、計画の見直しをしている。利用者の状況が変化した場合には、その都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたこと、普段とは違ったこと、言葉などを記録し、職員間で共有し検討課題があれば話し合っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	道の駅でフリーマーケットに参加し、各個人が得意分野での仕事を行った。地域の催し物では、興味のある方を行事に合わせ、ピックアップし参加している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段の会話から知り得たニーズに対して、本人や家族と相談し可能な限り希望に沿えるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診以外は、本人及び家族の希望を必ず聞くようにし、受診後は、必ず報告するようにしている。家族送迎の受診時は日頃の様子を説明し、メモも渡している。受診後の報告もしてもらっている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療と月1回の受診の支援をしている。月1回、歯科の定期検診(クリーニング)の支援もしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時は、医師に利用者の情報を提供し、結果は電話や面会時に家族に伝えている。緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的に変化があれば、隣接しているデイサービスの看護師に相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に伝えなくてはいけない情報、また、退院時に聞いて気を付けなければならない情報の項目表を作成し漏れのないように努力している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には、本人や家族の思いを尊重しながら、主治医と家族が話し合った後、主治医の指示に従う。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて、共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	応急手当や初期対応の勉強会を行い、定期的な訓練を行っている。消防署に救命救急講習を依頼し、実技指導をお願いし、参加している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハットや事故報告書にその日の職員間で対応策を検討して記録し、申し送り時に回覧して、共有している。月1回の職員会議時に再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年2回、消防署の協力を得て救急救命法の講習を受講している他、内部研修で転倒、熱中症、低温火傷、ノロウイルス、インフルエンザなどについて研修を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯を想定し、地域の方に合同訓練の声掛けをし、案内状の配布、特別ニュースとして、訓練の結果、情報を提供している。また、ハザードマップを皆に見える位置に掲示し、避難場所を把握している。	消防署の協力を得て年2回、ディサービスと合同の昼夜想定避難訓練をスーパーの店員の参加(1回)を得て実施している。事業所として夜間想定5回、昼間想定4回の通報訓練や避難誘導等を利用者も一緒に実施している。職員は利用者と一緒に訓練のちらしと案内状を市民会館、道の駅、スーパーマーケットなどに配布したところ、今回はスーパーマーケットから1名の参加を得ている。災害時には、近くのコンビニエンスストアに避難場所の受け入れの了解を得ているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初心を忘れず、入居者は人生の先輩という 思いを常に持ち入居者に対し、馴れ合いに ならないように意識し、不適切な言葉や対応 があれば、職員間で注意しあい、管理者がそ の都度指導している。	内部研修で接遇について学び、職員は利用 者を人生の先輩として敬意をもって接し、一 人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応を している。不適切な対応があればその都度、 管理者が指導をしている他、職員間でも注意 し合っている。個人記録等は管理して取り扱 いに注意し、守秘義務について理解してい る。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者本位の生活支援という基本を忘れる 事なく、どうしたいのか、何をしたいのかを「ど うしましょうか？」と選択の幅を広げて聞き、自 己決定出来るように努めている。言葉の出に くい方は、選択出来るようにいくつかの事項 を聞くようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりを理解し、「できる」「やってみた い」気持ちを誘発するような声掛けをしてい る。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	起床時の衣服は、職員と一緒に選んでいる。 女性は、行事参加時や外出時に化粧を勧め、髪型を整えたり、アクセサリーを付けたり している。男性は入浴や起床時に髭剃りを準備している。男女共におしゃれを楽しんでい る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は和食かパン食を、昼食・夕食は3～5種類の中から、利用者が希望のものを選んでいいる。食事準備、盛り付け、配膳、後片づけを職員と一緒にしている。無理なく食事が出来るように食事形態、椅子の座面の高さの調整、味付けの工夫をしている。	三食とも、ご飯と汁物は事業所でつくり、副食は法人の配食メニューの中から利用者が選び、一人ひとりの好みに応じて提供している。形状は一人ひとりの状態に合わせて工夫している。利用者は味噌汁づくり、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭きなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食卓で会話をしながら食事を楽しんでいる。年1回の開設記念パーティのメニューづくりに利用者も参加したり、季節の行事食(おせち、恵方巻き、ひな祭り、クリスマス会等)、おやつづくり(ゼリー、よもぎ団子、アップルパイなど)、弁当持参の花見、事業所としての外食(6回)の他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食量や水分量を記録している。月1回の体重測定を行い、増減の変化のある方は食事量を調整している。嚥下に問題のある方は、トロミを使用している。お茶での水分補給が難しい方含め、個人の好みの飲み物を個人が購入している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を外して歯磨き、うがいを施行し、義歯洗浄をしてもらっている。必要な方は、舌ブラシを使用している。夜間は、義歯、歯ブラシ、コップを洗浄、消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認して、トイレ誘導、声掛けをしている。夜間や外出時、体調の悪い時以外は、布パンツを使用、状態に応じて適切なインナーシートやパッドを使用している。	排泄チェック表を活用して、パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、起床時に乳酸飲料を飲んでもらい、朝食時にバナナヨーグルトを摂取し、水分は多めに飲んでもらうように声掛けや働きかけ、適度な運動を勧めている。便秘が改善されない方は、医師や薬剤師に相談、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく寝る前希望という事で16:00～21:30の間で一人ずつの希望を聞いて入浴している。入浴剤や季節の花や柚子等、季節を感じて頂いている。その日の気持ち、状態によってはシャワー浴、手足浴、清拭を行っている。	入浴は、16時から21時30分の間に、毎日利用者が希望する時間に入浴できるように支援している。入浴したくない人には声かけの工夫や時間を変更して対応している。体調に応じて清拭やシャワー浴、足浴の支援をしている。柚子湯、紫陽花、バラ、ミントなどの季節の花などや入浴剤を入れて、入浴を楽しめるよう一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせ、室温やベッド周りの家具の配置を考え、日中の活動も含め安心して眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋を一緒に保管をして確認出来るようにしている。服薬の確認は、準備する人、渡す人、チェックをする人と3人の職員が携わっている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割を持って頂く。他者のお世話、ご本人主役の誕生日会、絵手紙、講演会参加、買い物、フリーマーケットでの接客や販売等、楽しみや気分転換の支援をしている。	フリーマーケット出店時の会計、値札づくり、式辞づくり、ポスターづくり、企画書作成、味噌汁づくり、下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き、おやつづくり、シーツ交換、草取り、拭き掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、俳画、絵手紙、折り紙、トランプ、しめ縄教室、生け花教室、法人の行事(新年会、豆まき、七夕、夏祭り、敬老会、運動会など)への参加、ボランティア(コーラス、カラオケ、踊り、太鼓、獅子舞など)との交流、保育園児や中学生との交流、ラジオ体操、足踏み体操、季節の飾り物づくりなど、利用者のできることやしたいことを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、日々、生き生きとした生活ができるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外出するようにしている。おやつを戸外で食べたり、地域の行事や講演会に参加している。みなさんが見えるように、行事予定が書いてある菊川カレンダーを壁に貼ってある。	周辺の散歩やスーパーでの買い物、小学生の音楽祭、地域の夏祭り、敬老会、文化祭、芸能まつり、音楽祭、ボランティアまつり、講演会、ふれあいコンサート、初詣、花見(桜、菖蒲)、寺やお大師さま参り、東行庵、道の駅、花火大会、法人の行事(文化祭、運動会、夏祭りなど)に出かけている他、家族の協力を得ての外出、外泊、法事への出席、墓参りなど、戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望の品物を職員と一緒に買物に行き、レジでは自分で代金を払うように支援し出来る方は出納帳との照合等もして頂いている。利用者主体のフリーマーケットを出店することにより、値札付けや、地域の方とのお金のやりとり、お釣りの管理、売り上げの管理、報告をみなさんで出来るように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に電話をかけている。本人に品物が届いたときには、受け取りとお礼の電話をかけて頂くように声をかけている。手紙は、最寄りの郵便局で、本人がハガキを購入し投函できるまで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自由に使用している。玄関周辺に花を植え、季節の花を育て、咲かせる喜びを感じてもらっている。施設内の花は利用者自ら活け、季節ごとの飾りを作成したりしている。湿度・温度計を確認し、エアコン、加湿器の使用や換気等を行っている。	食堂兼リビングは2階に位置し、広い窓からはスーパーや郵便局などの商店街や周辺の山々が眺められ、四季を感じることができる。対面式の台所からは御飯の炊ける匂いや利用者がつくる味噌汁の匂いが漂っている。食後は利用者が一緒になって食器洗いや食器拭きをお喋りしながらしている。テレビが置いてある窓辺の大きなソファは、くつろげる場所となっている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを点在させて、それぞれ自由に過ごせるようにしている。廊下にもソファを設置し、落ち着いた空間になっている。状況に応じてテーブルや椅子を移動している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人が使い慣れた物(食器・写真)を持ってきてもらうようお願いしている。チェストの上には見慣れた自分の衣服を置いている。	ギターや時計、寝具、衣類、日用品など使い慣れた物などを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の物は、ほとんど自由に使ってもらっている。エレベーターや階段の使用も自由なので、職員が知らない間に、移動しないように注意しながら支援している。「トイレ」と表記、廊下の道具入れの棚にあるパッドを自由に使わないように値段表記の工夫をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム パラディース

作成日： 平成 28 年 11 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	○災害対策 地域との協力体制の構築	近隣の企業や、住民に定期的な化一句を提案する。入居者の状態を知って頂けるように日常の中で関心をつないでいく。	日常的に交流する場面を作っていく事を継続し、避難訓練や救急救命講習に参加しやすい環境にする。夜間想定では一歩進んだ協力体制を話し合う。	1年
2		○事故防止の取組みや事故発生の備え 全職員で応急手当や初期対応の実践力を身につける。	全職員で応急手当、初期対応をしっかりと身につけるために定期的訓練を継続していく。	全員参加は困難ではあるが、定期的訓練を継続する。少しの時間でもお互いに訓練を行う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。